

市長記者会見記録

日時：2022年2月15日（火）14時00分～14時14分

場所：第3庁舎18階 講堂

議題：市政一般

<内容>

《市政一般》

【司会】 ただいまから定例市長記者会見を始めます。本日の議題は、市政一般となっております。

それでは、早速質疑に入らせていただきますが、進行につきましては、幹事社様、よろしくお願いいたします。

《新型コロナウイルス感染症について》

【東京（幹事社）】 幹事社、東京新聞です。よろしくお願いいたします。昨日、保育施設の休園の考え方が示されましたけれども、改めて、子供たちの現場について大変な状況とか課題とかという現状、どのように聞いていたり受け止めているかという部分を教えていただけますでしょうか。

【市長】 まず、休園の数が非常に増えてきているということで、そういう状況の中で保育所の業務も非常に逼迫しておりまして、濃厚接触者を特定するのが非常に難しくなっている状況にあります。そんな中で、オミクロン株の特性等を踏まえて、より現実的なものをやらないと、全体での休園というものが社会に与えるインパクトが非常に強いものですから、それをどうしていくべきなのかをこれまで議論してきましたけれども、そういう中で、みなし濃厚接触者を特定して、そして、感染の拡大みたいなものが見られなければ、4日目以降からは、みなし濃厚接触者以外の方は保育を再開するという形にさせていただきました。

【東京（幹事社）】 それで、少し状況としては改善されるかなというような期待感とありますか。

【市長】 少なくとも、今よりはよくなるのではないかなと思っています。どういう方向を取っても、いろんな御意見をいただくのですが、やはり私としては、3日間の間でも、全体休園ということではなくて、みなし濃厚接触者のクラスだけ休園してということとはできないだろうかみたいな話はしたんですけれども、やはりこれまでの状況を鑑みると、一旦解除するんだけど、すぐまた隣のクラスで出てきてしまうとか

というのが度々起こっているケースが多いらしくて、そういった意味では、園側の消毒だとかいろんな体制を整えるにしても、やはり最初の3日間は全体休園するのが望ましいという形でありましたので、こういう形に落ち着きました。

【東京（幹事社）】 分かりました。

もう一つ、小児用ワクチンの考え方についてですけれども、保育園の子たちは対象になり切らない子が多いかと思いますが、川崎市でも本格化されると思いますけど、そこら辺のスケジュール感とか呼びかけなどを伺えますでしょうか。

【市長】 今、医療機関に小児ワクチンをどのぐらい打っていただけたところがあるのかということ調査しておりまして、現時点では大体150施設から協力の意向をいただいているということで、小児ですから集団接種がちょっとなじまないの、個別医療機関で接種して、ゆっくり保護者も同伴でという形でやるのが望ましいということで、その準備をさせていただいております。3月中に順次接種を開始できるように準備をしていくということでもあります。

もう一つ、接種券を段階的にとかという発想ではなくて、一括してお送りするという形にさせていただく。小児の場合は、基礎疾患を持っている方はなるべく早く打ったほうが良いという呼びかけをさせていただきたいのですが、全世代一緒ですけれども、誰が基礎疾患を持っているのかというのを私どもは把握しておりませんので、基礎疾患を持っているのにまだ接種券が届かないということ避けるために、一括して発送するという形にさせていただきたいと思っています。

小児のところの接種券はいつでしたでしょうか、発送予定は。

【健康福祉局】 健康福祉局でございます。まだ小児接種、大臣の指示は正式には出ておりませんが、並行して準備を進めておりまして、2月下旬には発送ができるような形で準備を進めたいと思っております。

以上でございます。

【東京（幹事社）】 分かりました。ありがとうございます。

【共同（幹事社）】 幹事社、共同通信から、ワクチンの関連で。3回目のワクチン接種なんですけれども、現状、川崎市においては順調に進んでいるのか、それともやっぱり伸び悩んでいるのか、課題等があれば教えていただきたいんですけれども。

【市長】 何をもって順調とするかというのはあれですけれども、今どのぐらい進んでいるかということ、数字だけお伝えさせていただきたいんですが、まず、65歳以上においては39.49%になっております。75歳以上では45.27%という状況まで進んできております。全体で見ますと11%という状況になっております。

それから、高齢者施設のところも、約400施設、入所系のところでもありますけれども……。

【健康福祉局】 入所と通所と合わせて450ぐらいでございます。

【市長】 450あるということですがけれども、そのうち、今月中に完了できる見込みが約400施設ぐらいだと今、調整を進めている状況でございます。

よろしいでしょうか。

【共同（幹事社）】 はい。

幹事社から以上です。

【東京（幹事社）】 各社さん、ありましたらお願いします。

《特別自治市について》

【神奈川】 神奈川新聞です。お願いします。特別自治市の関係なんですけれども、先日、常任委員会でパブリックコメントの結果が示されましたけれども、その内容を見ますと、半数以上が反対ということになっていまして、これについて市長の受け止めと、その結果を踏まえて、今後どのように普及啓発に取り組んでいくのか、その思いなどを聞かせていただければと思います。

【市長】 あのパブリックコメントの内容について、委員会で詳しく説明をさせていただきましたでしょうか。

【神奈川】 事情は聞いております。

【市長】 ですから、数だけで見るとものすごく誤るなと思いますので、そこは報道もぜひ気を付けていただきたいと思います。特定の方たちが非常に多く出されているということで、まだ一般の市民の方があまりよく御存じないということもあると思いますので、そういった意味では今年は、自治会、町内会の皆さんをはじめ、各種団体の皆さんにもしっかりと出前講座など、講座というほど上からじゃないですけど、出前で説明会などをさせていただいて、その制度の趣旨、詳しい内容をしっかりお伝えしていかなければならないなと思っております。

【神奈川】 ありがとうございます。

《新型コロナウイルス感染症について》

【朝日】 朝日新聞です。保育所の感染に関連して、3回目接種でどこまで発症予防になるかという議論は別にあるかと思うんですけど、保育士さんに優先接種みたいな形は考えていらっしゃるのでしょうか。

【市長】 前回の会見でもお話ししたと思いますが、既に大規模接種会場などで優先接種枠をつくって、そこに御紹介して、どんどん入ってきていただいております。た

だ、まだ6か月に満たない若い保育士さんが非常に多いものですから、そこはネックになっております。6か月前に打つことはできないので、そういった意味ではしっかりと勸奨して、施設から、それぞれの保育園などから、できる方という形で来ていただいて、順次進めております。

【朝日】 なるほど。ほかの自治体だと、例えば接種券がまだ届かないとかというのがボトルネックになっているようなところもあるようなんですけど、川崎の場合はどうなんでしょうか。

【市長】 届いていなくても、優先接種という形でやらせていただいております。

【朝日】 なるほど。分かりました。

《中学生死亡事件について》

【神奈川】 2つほど質問があるんですけども、5月20日で中学2年生の上村遼太さんが殺害された事件から7年を迎えますけれども、この7年間で、市として子供の居場所づくりのために取り組まれてきたことや、事件を振り返っての市長のお受け止めをお伺いしたいのですが、いかがでしょうか。

【市長】 当時13歳だったので、7年たつということは20歳になるということですから、そういった意味で、私たちとしてもこの事件は決して風化させないという思いは、私もそうですし、行政職員、それから地域の人たちも、このことについて7年間、地道な活動を本当に一生懸命やっていたと思います。

学校現場もそうでありますけれども、毎年2月というのは、改めて学校の体制を全校でチェックすることをしておりますし、それをしっかりと教育委員会の中で報告、チェックをしていく体制も取っていますし、校長・教頭研修もそうですし、あるいは、これまでの間で長期欠席者、1か月の中でも複数日休んでいるというところは、校務支援システムなどを使って早めに把握して、早めの声かけだとかアプローチをやっている。それは学校だけにとどまらず、そういったものは区の教育担当のところでしっかりと把握して、必要であればソーシャルカウンセラーだとか、あるいは、ソーシャルスクールワーカーだとかという、そういった人たちの支援がしっかりと受けられるような体制をつくっていくこともそうですし、この7年間で非常に進んだと言えば、地域包括ケアシステムの取組が子供たちを見守る環境というのは、本当に様々な形でできてきていると思っています。

居場所づくりについても、まだまだ課題はあると思いますが、少なくとも地域の中で、声をかけ合っという意識は格段に高まっていると思っています。引き続き取り組んでいきたいと思っております。

《本市出身監督のアカデミー賞ノミネートについて》

【神奈川】 ありがとうございます。

もう1問なんですけれども、別の話題なんですけれども、川崎市出身の映画監督の濱口竜介さんの作品、「ドライブ・マイ・カー」が米アカデミー賞4部門にノミネートされましたけれども、もし受賞なされば、日本人としては、監督賞、作品賞では初の快挙になりますけれども、もし作品を御覧になっていれば感想をお伺いしたいということと、また、市長として濱口さんに期待されること、快挙に対する受け止めがあればお伺いしたいんですが、いかがでしょうか。

【市長】 まず、映画はまだ見ておりません。実は、今回の受賞を機に、初めて川崎御出身だということを知って、恥ずかしながらであれなんですけれども、川崎市出身の映画監督が、まずノミネートされているという快挙になっていること自体、大変うれしく思っておりますし、川崎市としても映像のまちづくりをずっと続けてきておりますので、そういった意味で、関係者含めて非常にうれしいニュースだと思っています。作品賞を含めて、ノミネートされているところにちゃんと受賞してくれればうれしいなと思っております。凱旋に川崎に来ていただければうれしいなと思います。

【神奈川】 おっしゃるとおり。ありがとうございます。

【司会】 そのほか、御質問いかがでしょうか。御質問はよろしいでしょうか。

それでは、以上で市長記者会見を終了といたします。ありがとうございました。

【市長】 ありがとうございました。

(以上)

・この記録は、重複した言葉づかい、明らかな言い直しや質問項目などを整理した上で掲載しています。

(お問合せ) 川崎市役所総務企画局シティプロモーション推進室報道担当

電話番号：044(200)0312